



## 破損した CIMC ファームウェアの復旧

この章は、次の内容で構成されています。

- [CIMC ファームウェア イメージの概要, 1 ページ](#)
- [バックアップ イメージからの E シリーズ サーバのブート, 2 ページ](#)
- [破損した現在およびバックアップのイメージの復旧, 3 ページ](#)
- [障害がある SD カードからの復旧, 5 ページ](#)

### CIMC ファームウェア イメージの概要

E シリーズ サーバには、同一の CIMC ファームウェア イメージが 2 つ搭載された状態で出荷されます。E シリーズ サーバがブートするイメージコピーを選択できます。E シリーズ サーバがブートするイメージコピーは現在のイメージで、もう 1 つのイメージコピーはバックアップ イメージです。

E シリーズ サーバのブートに問題がある場合は、現在の CIMC ファームウェアが破損しているか、SD カードに問題があるか、CIMC ファームウェアのインストールが正常に終了しなかったことが原因として考えられます。破損した CIMC ファームウェア イメージから回復するには、次のいずれかの操作を適宜実行してください。

- 現在の CIMC ファームウェア イメージが破損しており、バックアップ イメージがある場合は、そのバックアップ イメージを使用して E シリーズ サーバをブートします。「[バックアップ イメージからの E シリーズ サーバのブート](#)」を参照してください。
- 現在のバックアップ イメージもバックアップ イメージも破損している場合は、「[破損した現在およびバックアップのイメージの復旧](#)」を参照してください。
- SD カードに問題がある場合は、「[障害がある SD カードからの復旧](#)」を参照してください。
- CIMC ファームウェアのインストールが正常に終了しなかった場合は、CIMC ファームウェアを再インストールします。

# バックアップイメージからの E シリーズ サーバのブート

現在の CIMC ファームウェア イメージが破損しており、バックアップイメージがある場合は、そのバックアップイメージを使用して E シリーズ サーバ をブートします。

## はじめる前に

- E シリーズ サーバの種類に応じて、次の手順を実行します。
  - ダブル幅：シリアル ケーブルの一端を E シリーズ サーバのシリアル ポートに接続し、もう一端を PC に接続します。
  - シングル幅：KVM コネクタを E シリーズ サーバの KVM ポートに接続してから、シリアルケーブルの一端を KVM コネクタの DB9 ポートに接続し、もう一端を PC に接続します。
- シリアルの出力を表示するには、環境に応じて次のいずれかを実行します。
  - Microsoft Windows：Hyper Terminal を起動します。
  - Linux：Minicom を起動します。
- 通信設定は、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、および 1 ストップビットに設定します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router# <b>hw-module sm slot oir-stop</b>	指定した E シリーズ サーバの電源をシャットダウンします。  (注) このコマンドは、Cisco 3900 シリーズ ルータにのみ適用されます。その他すべてのルータの場合、手動でルータの電源を再投入する必要があります。
ステップ 2	Router# <b>hw-module sm slot oir-start</b>	指定した E シリーズ サーバを再起動します。  (注) このコマンドは、Cisco 3900 シリーズ ルータにのみ適用されます。その他すべてのルータの場合、手動でルータの電源を再投入する必要があります。
ステップ 3	***	Hyper Terminal または Minicom から、*** コマンドを入力してブートローダ プロンプトを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<code>ucse-cimc &gt; boot backup</code>	バックアップイメージから E シリーズ サーバをブートします。ログインプロンプトが表示されます。
ステップ 5	<code>unknown login: admin</code>	ユーザ名に <code>admin</code> と入力します。また、パスワードを設定した場合は、そのパスワードを入力します。設定していない場合は、デフォルトのパスワードである <code>password</code> を入力します。  CIMC CLI が表示されます。

この例では、バックアップ イメージから E シリーズ サーバをブートします。

```
Router# hw-module sm 2 oir-stop
Router# hw-module sm 2 oir-start
```

\*\*\*

```
ucse-cimc > boot backup
unknown login: admin
password: password
```

## 破損した現在およびバックアップのイメージの復旧

現在のイメージとバックアップ イメージの両方が破損している場合、次の手順を使用して CIMC ファームウェア イメージを復旧します。

### はじめる前に

- E シリーズ サーバの種類に応じて、次のいずれかを実行します。
  - ダブル幅：シリアル ケーブルの一端を E シリーズ サーバのシリアル ポートに接続し、もう一端を PC に接続します。
  - シングル幅：KVM コネクタを E シリーズ サーバの KVM ポートに接続してから、シリアル ケーブルの一端を KVM コネクタの DB9 ポートに接続し、もう一端を PC に接続します。
- イーサネット ケーブルを E シリーズ サーバの管理（専用）ポートに接続します。
- シリアルの出力を表示するには、環境に応じて次のいずれかを実行します。
  - Microsoft Windows：Hyper Terminal を起動します。
  - Linux：Minicom を起動します。
- 通信設定は、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、および 1 ストップ ビットに設定します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router# <b>hw-module sm slot oir-stop</b>	指定した E シリーズ サーバの電源をシャットダウンします。  (注) このコマンドは、Cisco 3900 シリーズ ルータにのみ適用されます。その他すべてのルータの場合、手動でルータの電源を再投入する必要があります。
ステップ 2	Router# <b>hw-module sm slot oir-start</b>	指定した E シリーズ サーバを再起動します。  (注) このコマンドは、Cisco 3900 シリーズ ルータにのみ適用されます。その他すべてのルータの場合、手動でルータの電源を再投入する必要があります。
ステップ 3	***	Hyper Terminal または Minicom から、*** コマンドを入力してブートローダプロンプトを開始します。
ステップ 4	ucse-cimc > <b>boot current recovery</b>	現在のイメージから E シリーズ サーバをブートします。  または  バックアップ イメージから E シリーズ サーバをブートすることもできます。ステップ 5 を参照してください。
ステップ 5	(任意) ucse-cimc > <b>boot backup recovery</b>	バックアップ イメージから E シリーズ サーバをブートします。  または  現在のイメージから E シリーズ サーバをブートすることもできます。ステップ 4 を参照してください。
ステップ 6	Recovery-shell # <b>dedicated-interface management-interface-ip-address netmask gateway-ip-address</b>	IP アドレス、サブネット マスク、および E シリーズ サーバの管理 (専用) インターフェイスのゲートウェイの IP アドレスを指定します。
ステップ 7	Recovery-shell # <b>ping tftp-ip-address</b>	CIMC ファームウェアが保存されているリモートの TFTP サーバに ping を送信し、ネットワーク接続を確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	Recovery-shell # <b>update</b> <i>ftp-ip-address image-filename</i>	CIMC ファームウェア イメージをインストールします。このイメージはリモートの TFTP サーバに保存されています。
ステップ 9	Recovery-shell # <b>reboot</b>	CIMC をリブートします。

次の例では、現在のイメージから CIMC ファームウェアが復旧されます。

```
Router# hw-module sm 2 oir-stop
Router# hw-module sm 2 oir-start

***

ucse-cimc > boot current recovery
recovery-shell# dedicated-interface 192.168.0.138 255.255.255.0 192.168.0.1
Network configuration:
  IP config: addr: 192.168.0.138 Mask: 255.255.255.0
  Gateway: 192.168.0.1
recovery-shell# ping 10.20.34.56
PING 10.20.34.56 (10.20.34.56): 56 data bytes
64 bytes from 10.20.34.56: seq=0 ttl=60 time=10.000 ms
64 bytes from 10.20.34.56: seq=1 ttl=60 time=0.000 ms
--- 10.20.34.56 ping statistics ---
10 packets transmitted, 10 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 0.000/1.000/10.000 ms
recovery-shell# update 10.20.34.56 update_pkg-cimc.combined.bin
downloading firmware image "update_pkg-cimc.combined.bin" from " 10.20.34.56 "
download firmware image done, size in bytes: 22384144
installing firmware image, please wait ...
activating installed image
done
Stage: NONE
Status: SUCCESS
Error: Success
recovery-shell# reboot
```

## 障害がある SD カードからの復旧

E シリーズ サーバのブートに問題がある場合、SD カードに障害が発生している可能性があります。新しい SD カードに CIMC ファームウェア イメージを復旧するには、次の手順を実行します。

### はじめる前に

- E シリーズ サーバの種類に応じて、次のいずれかを実行します。
  - **ダブル幅** : シリアル ケーブルの一端を E シリーズ サーバのシリアル ポートに接続し、もう一端を PC に接続します。
  - **シングル幅** : KVM コネクタを E シリーズ サーバの KVM ポートに接続してから、シリアル ケーブルの一端を KVM コネクタの DB9 ポートに接続し、もう一端を PC に接続します。

- イーサネット ケーブルを E シリーズ サーバの管理（専用）ポートに接続します。
- シリアル出力を表示するには、環境に応じて次のいずれかを実行します。
  - Microsoft Windows : Hyper Terminal を起動します。
  - Linux : Minicom を起動します。
- 通信設定は、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、および 1 ストップビットに設定します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Router# <b>hw-module sm slot oir-stop</b>	指定した E シリーズ サーバの電源をシャットダウンします。  (注) このコマンドは、Cisco 3900 シリーズ ルータにのみ適用されます。その他すべてのルータの場合、手動でルータの電源を再投入する必要があります。
ステップ 2	障害のある SD カードを取り外し、新しい SD カードを挿入します。	障害のある SD カードを交換します。
ステップ 3	Router# <b>hw-module sm slot oir-start</b>	指定した E シリーズ サーバを再起動します。  (注) このコマンドは、Cisco 3900 シリーズ ルータにのみ適用されます。その他すべてのルータの場合、手動でルータの電源を再投入する必要があります。
ステップ 4	***	Hyper Terminal または Minicom から、*** コマンドを入力してブートローダプロンプトを開始します。
ステップ 5	ucse-cimc > <b>boot current recovery</b>	現在のイメージから E シリーズ サーバをブートします。  または  バックアップ イメージから E シリーズ サーバをブートすることもできます。ステップ 6 を参照してください。
ステップ 6	(任意) ucse-cimc > <b>boot backup recovery</b>	バックアップ イメージから E シリーズ サーバをブートします。  または  現在のイメージから E シリーズ サーバをブートすることもできます。ステップ 5 を参照してください。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	Recovery-shell # <b>dedicated-interface</b> <i>management-interface-ip-address</i> <i>netmask gateway-ip-address</i>	IP アドレス、サブネットマスク、および E シリーズ サーバの管理（専用）インターフェイスのゲートウェイの IP アドレスを指定します。
ステップ 8	Recovery-shell # <b>ping</b> <i>tftp-ip-address</i>	CIMC ファームウェアが保存されているリモートの TFTP サーバに <b>ping</b> を送信し、ネットワーク接続を確認します。
ステップ 9	Recovery-shell # <b>update</b> <i>tftp-ip-address image-filename</i>	CIMC ファームウェア イメージをインストールします。このイメージはリモートの TFTP サーバに保存されています。
ステップ 10	Recovery-shell # <b>reboot</b>	CIMC をリブートします。

次の例では、現在のイメージから CIMC ファームウェアが復旧されます。

```
Router# hw-module sm 2 oir-stop
Router# hw-module sm 2 oir-start

***

ucse-cimc > boot current recovery
recovery-shell# dedicated-interface 192.168.0.138 255.255.255.0 192.168.0.1
Network configuration:
  IP config: addr: 192.168.0.138 Mask: 255.255.255.0
  Gateway: 192.168.0.1
recovery-shell# ping 10.20.34.56
PING 10.20.34.56 (10.20.34.56): 56 data bytes
64 bytes from 10.20.34.56: seq=0 ttl=60 time=10.000 ms
64 bytes from 10.20.34.56: seq=1 ttl=60 time=0.000 ms
--- 10.20.34.56 ping statistics ---
10 packets transmitted, 10 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 0.000/1.000/10.000 ms
recovery-shell# update 10.20.34.56 update_pkg-cimc.combined.bin
downloading firmware image "update_pkg-cimc.combined.bin" from " 10.20.34.56 "
download firmware image done, size in bytes: 22384144
installing firmware image, please wait ...
activating installed image
done
Stage: NONE
Status: SUCCESS
Error: Success
recovery-shell# reboot
```

